役者評判記

チ13
3849
94

特
3849
94

手13

兜

問 冑トハ如何ニ

答 歌舞ノ舞トハ戯場ノ興起ニシテ是俳優藝道ノ始ナリ

鎧

問 鎧トハ如何ニ

答 是狂言ノ出来宜キヲ上方詞ニテ永来能ト云心ナリ

弓

問 弓トハ如何ニ

答 是役者ノ心意ニテ氣ヲ張テ為出情ヲ弓ト弦トノ出無ニ速之違ヒアリ

矢

問 矢トハ如何ニ

答 弓ト同意ニシテ的ヲ不外射ヲ定只一筋ニ中心ハ藝道修行ノ第一ナリ

鉄炮

問 鉄炮トハ如何ニ

答 狂言趣向ノ大當ニ愛求千強當ルト言祝言ナリ

鎗

問 鎗トハ如何ニ

答 長短ノ得手ニ寄テ辨利有ト云ヒ何分突テナリトモ勝ヲ取ガ無ク薙ノ奪トス併鎗ヲ諸ル大ニ禁ヲナリ

長刀

問 雄刀トハ如何ニ

答 是曲剣ニシテ貴ニ所作有月ノ形有テ姿艶成ハ女形二表シタリ

太刀

問 太刀トハ如何ニ

答 素平ノ鞘ハ鍛物ニシテ一日ノ狂言ノ終リニハ此場ハ御太刀黄金作ノ藏納ハ芝居繁昌ノ記ニテ目出度

○乃上五ツ名高ク世ニ知ル人ノ名ハ

△以下ハ出陣ノ体ニ又他国ノ人ノ名ハ

▲巻頭

崑崙寛 小ぐろ

早雲 長尾為景 北条氏康

武田信玄 中村勘三郎

市川白猿

奉行四

▲

雲上書

何後ニ

武蔵坊弁慶 中ノ村

源九郎義経

武道ハ人ノ重宝

後ニ

雲上書

市川団蔵 中屋

南部三河屋ト人名ノ頼朝

上上書

市川海老蔵 竹田

仕出シノ人ハ五後ノ

経基

上上書

小川寿太郎 山ぐち

形ハ人ノ姿ノ三番ノ

上上吉　板東彦三郎　△
菊水くとうの名のお名へ　高橋

上上吉　嵐三八郎　竹田
市中の内の恩坂ぬく　文の義貞

上上吉　中村歌七　中ノ社
うりがいはしよそのる　朝霧

上上吉　市川乱蔵　田ノ社
兼蔵もこせつ　あり　変元

上上吉　尾上多賀郎　田ノ社
三ヶ月波の つ　時致

上上吉　市川団三郎　田ノ社
吐夜とう三河後の　初名と　嗣信

上上　嵐吉三郎　竹田
腹くと　物ひのよん　亮の助

上上　片岡隆九　竹田
子ふ師　親父の　片桐　又五郎

上上　嵐小七　中ノ社
弟　又改こ名と　小七と　強ノ介

上上　市川三十郎　竹田
市川新蔵　田ノ社

上上　尾上延三郎　中ノ社
ゆくとさーとそこ　田原　藤

上上　坂東寿三郎　田ノ社
お二人　ぶくとよろ　坂上田村丸

上上　嵐門十郎　竹田
中村源左衛門　小野好古

上上　嵐長八郎　中ノ社
御年切ぶけ仕内ハ　小野好古

上上　嵐長八郎　中ノ社
義の仕うふもそ　チト　片岡八郎

上上　中村勘十郎　田ノ社
中村歌右衛門　中ノ社

上上　中村歌右衛門　中ノ社
ぶくと付ハ大ゆ　でしの　源義経　弁慶

上上　市川民蔵　中ノ社
中村福蔵　田ノ社

上上　中村福蔵　田ノ社
ゆ　ぶ　ハ　四天王　武

上上　嵐徳松　竹田
お二人ともゆうふかなる白国の
徳島藩三千石△
陸奥藩三万石△
ぶんく　花も咲かぬ　徳井東光
上上　嵐藤　中屋
徳島藩三万石△
さく　幸運のお歌の　雄水良光
上上　中山新吉　徳川家の家
近江いとんとお歌くてんもの
上上　市川徳蔵　実
上上　中村吉次郎　口
上上　市川家の家　口
上上　中村家の家　口
上上　嵐徳蔵　口
上上　嵐徳蔵　口
上上　中村勘九郎　口
上上　嵐九郎　口
上上　嵐市之助　口
上上　嵐吉次郎　口
上上　中山家の家　口
上上　嵐徳蔵　口
上上　市川家の家　口
上上　嵐徳蔵　口
上上　市川家の家　口
上上　嵐吉次郎　口
上上　中村家の家　口
上上　嵐家の家　北
上上　中村彦蔵　口
上上　中村勘六　口
上上　嵐九郎　口
上上　嵐政吉　口
上上　中村郎　西
上上　嵐家の家　竹田
上上　嵐徳蔵　口
上上　市川家の家　口
上上　嵐徳蔵　口
上上　嵐九郎　口
上上　嵐政吉　口
上上　市川家の家　口
上上　中山家の家　口
上上　嵐徳蔵　口
上上　市川家の家　口
上上　嵐徳蔵　口
上上　嵐九郎　口
上上　嵐政吉　口
上上　市川家の家　口
上上　中村家の家　口
上上　中山周次　口
上上　中村倉蔵　口

△実悪敷役し郷

大吉　板東寿三郎　中元

尚時伝役でもたとえの作り　楠

上上吉　濱尾国又郎　口元

実悪の中よりおちつきのめり　来法師

上上吉　濱尾内蔵　作田

手先まかりの人形の悪玉　熱

上上　板東国又郎　中元

敵役でも大名お古人　名和長年

上上　中村東蔵　小ぐん

さらく実悪とうりこさぐり　鶴の尾

上上　三浦松又郎　作田

又がゑられるとかと部屋太

上上　板東七又郎　中元

敵役の仕りの人実悪　右田

上上　大谷門蔵　△

仕用の大ぜまり大本の　松永

上上　山村東蔵　中元

口元　濱尾寿三郎　△

美しつくも　おまへの　悪源太

上上　濱尾鶴三郎　ゆがん

久しぶりでお部屋を　三保の谷

上上　中村鶴十郎　口元

中村源十郎　作田

お二人りともこのうちさま　仁田四郎

上上　片岡松五郎　△

鶴蔵　作田

どこもおうしこもめり　鶴蔵

上上　板東大八　口元

浜村真市　口元

お相手の役地うち　楠

上上　大谷万次郎　ぬ

上上　市川九郎次　口

上上　大谷物他　口

上上　濱尾地人　口

上上　濱尾竹次郎　中

上上　嵐総八　口

上上　嵐川安十郎　口

上上　濱尾内蔵　竹

上キ上　中村仲助

実悪　上上吉目　お都い彩　嵐金九郎　大谷友右衛門

春猫　上上吉　めくてんでうのあらしん　公助　浜尾源十郎

▲道外芝居形之部

上上吉目　中村友三　△　九蔵くとお名取　芳武

上上吉目　浜村長四郎　行田いのでもひようとうふまめ　曽我利

一上　市川流三郎　一上　浜尾源三郎　中

一上　浜村勘弟　一上　中村布三郎

▲若女形之部

至上上吉　澤村国三郎　中村

行後てもらふ　巴御前　小うた

上上吉　嵐雀光　ひさかたのもうもうかもたつ　板額女

上上吉　嵐加のふ　中村　御切髪ゆいはたらけれど　千代　祥

上上吉目　中山ぎん　口上　浜尾源三郎

上上吉目　ぶくんのとうりいらふ　浜尾源三郎

上上吉目　浜尾東三郎　口上　ちらり一ぷんひいてんん　浜朝

上上吉目　中村みみ巳　△　先姿のあれ　菖蒲糸　小がら

上上吉　中村梅三　うつうつうてこれでもてく　四四九郎

上上吉　中村歌女　△　ぶくんのこのいやはり　養子糸

上上吉　嵐徳三郎　行田　ぐんくとあり　土屋服

上上吉　中村歌門　小うた　ゆさくの中ようてある　兼道

上上吉　片岡松江　△　ちろくてごあり　宿敵

上上吉　中村義晩　小ぐる
　　坂東八重菊　△
御あんたぶんいらふまつさ真田
上上　坂東玉三郎　竹田
　　嵐　三ゑもん　小ぐる
　　坂東菊次郎　中ノ座
いづれもうつくしふて味をつる芸仲
上上　嵐　猪友　竹田
　　浅川友之助　中ノ座
　　中村芳りう　小ぐる
ぜんで面ろうふと行くのく　形須与市
上上　浅尾八百三　中ノ座
　　沢村ゆりき　小ぐる
　　嵐右衛門　△
　　沢村みどり　中ノ座
　　坂東玉三郎　中ノ座
お二人ともふ御ぢれるる　穀屋

上上　嵐　小雀　小ぐる
　　中村秋代　竹座
　　嵐鶴蔵　竹座
　　沢村雀長　竹座
　　坂東蔦之助　中ノ座
チトよい役がすんでなくい役者
上上　嵐源之助　竹田
　　市川竹之丞　竹座
　　坂東国松　中座
　　嵐徳松　竹座
　　中村常蔵　竹座
なくお服屋のかうち
上上　沢村国三郎　小ぐる
　　中村歌鶴　竹座
　　中村しのぶ　竹座
　　嵐猪之助　竹座
　　嵐寛之助　竹座
いづれもうつくしいこん

上上吉　中村三光　△
尾上梅之丞　中ノ丸
お二人とも ひいきされる 姿と 姿女
上上吉　義川彦太郎　中ノ丸
お次女ハヤハリうつの美人
大上上吉　中村秋治　ひだりかた
ごうみぐ　舞ナ　ごうみぐ 祝ナ の常盤屋
▲浪花角觀　ものもの 取ること 部

中村生之助　わかざ
市川栄次郎　口ノ丸
所岡孫三郎　口ノ丸
嵐多食丸　口ノ丸
三林光次郎　口ノ丸
義川猪三郎　中ノ丸
市川金太郎　口ノ丸
浅尾獅子丸　口ノ丸
浅尾屋之助　口ノ丸
浅東四郎　口ノ丸

上上

中村秋三郎
市川四之助　所和

ぢうてもうそのもらい　浅尾新

一嵐市三郎　北　一浅東三蔵　中
一中村雷弁　口　一浅東八重次　口
一中村義弁　口　一中村親義　口
一中村雛弁　口　一中村龍弥郎　口
一大長部弁　口　一山村文代蔵　口
一浅村門之助　口　一浅東関之助　口
一浅村雛蔵　口　一中村源表　口
一嵐表蔵　口　一浅東義表　口
一中村梅松　口　一中村数之介　口
一中村金之助　口　一浅東竹之丞　口
一中村弥之表　口　一浅東蔵表　口
一中村房表　口　一所岩之介　口
一中村弱表　口　一市川勝三郎　口
一中村義表　口　一浅尾新次郎　口
一嵐竹次郎　口　一浅尾浦左郎　口

▲頭取さく郡

長文死

一反ニ付　岩瀬国吉　わかぞ

一同　深瀬　清　同断

一同　長尾喜之助　同断

中山喜太郎　中村

板東国兵郎　同断

萩窪伊左郎　竹田

巻脚

一反ニ付　宇野敬吉　わかぞ

▲嘉善ノ行角小板目の表直ハ宋人言

▲嘉善ノ方さく郡

水川例座

一反ニ付　長柄伊十郎

一同　小川宗三郎

一同　小川久吉

一反ニ付　田中儀兵郎

一反ニ付　田中儀作

一反ニ付　潮出市十郎

一反ニ付　宮田長兵衛

一同　中村宇七

一同　中村文十郎

一同　宮田亮吉

一同　芳村長兵衛

一反ニ付　田中吉兵衛

一三反　中村新兵郎

一同　板東吉

一同　岩崎市兵衛

一同　長岡吉三郎

一同　田中宇三郎

一同　梓屋新吉

一同　中村金次郎

一少ニ付　小川藤兵衛

一ふ反ニ付　福島銀十郎

中さく座

一少ニ付　小川久吉

一大反ニ付　小川清次郎

一ふ反ニ付　中村宗左衛

一同　小松大吉

一同　小川熊吉郎

一五寸　芳村伊兵郎

一上　市村孝吉

一伊予　竹本武吉夫

一同　竹本平右衛夫

一同　竹本三好吉夫

一同　孝竹親後夫

一三束張　鶴沢高次郎

一同　鶴沢伊三郎

一同　鶴沢又左衛

一同　田中重兵衛

一張附　山村五郎

一同　篠塚文郎

長明　長文

一反ニ付　宮田長兵衛

一長文　岩崎長吉

一同　箱根又郎

一同　松田長三郎

一同　潮出重吉

一同　中村孝吉

一三弦 琴并伊三郎
一同 岩崎清表
一同 福原長義
一同 梓屋長兵
一三弦 梓屋重三郎
一同 中村彩六
一同 中村彩表
一あつま 中村重義
一小鼓 小川指義
行田住
一長唄 田中豊表
一清元 竹本千賀奏
一同 竹本三好奏
一長唄 湖出市三郎
一同上 板東指義
一清元 竹本濱奏
一同 竹本長代奏
一三味線 指沢笑勇折
一同 指沢大表
一後見 小川義市
一振附 山村又斗

▲雅言飛花者之部

而例〻住

近松正指
金沢金助

近松久表
指沢伊三表

金沢徳助
金沢弘助
近松寿助
近松重助
近松政助
金沢喜助
京河三九助
金澤一洗

中之部

京河勝助
並木三造
近松熊造
金沢紅助
近松義助
金澤春蒲

竹田氏

京河葉助
近衛喜の義
近衛[illegible]士助
近衛文助
松井義幸
近衛万助
近衛長助
近衛橋助
近衛政助

千鶴第葉樂

大[illegible]

附録

上上吉　嵐圓八　道産

[illegible]

めうとみまちがへとさへいはれしでござりました
時に安永元の春より京の嵐三五郎座も勤て
かの故嵐三五郎の出勤も揃ふて京都の座へ参られ
るゝやら難波へ出らるゝやら京の嵐座へ出勤の事で
国太郎嵐三五郎と同座にてあたり一ツ谷の評判
さの後とも勤との噂も此度はさぞかし彼地賑々しくお
勤なされて度ハいかゞよからうと楽しみに待ち申す京都の
年秋の比より難波の芝居へ出勤の由にて其節
と結び判者其兄子弟なと申す事を以後は出世と
安永三年の二の替りより外ニ先ハ宜しく
【頭取】此度の評は先ヅ延老でも大事の役者が
おれすてられても難波にて勤め頭取は上上吉の
おやまの役者をさしおいてもよいと申すふしぞんぶんにて
でござる古今ハ今も今年で丁度五十年よ
あるが中の元祖の中の又七へ五十五の年に候ぞ

みだれにて荒事役者の是からの芸を一代
と勤められ古今稀なる事なり有がたき事とよく
役者も納め再び荒事を見込み其以前の浄光
先年花に見て某ハ口上の名あり
法師と改め名を海老蔵と云ひ嵐三五郎
次の某本年より元政十年の年ま
宝の芸をこで四代目の此座へも頃傾城買を指南いたし
京の出で其後は嵐を一世一代にして是を
のがれたる芝居も判者よって同く洛東の某村に
住居致されしが其ち又此五郎の安永三年より
芸と改めて来て風雅な事もいたされ候を
よく年迄でござりましたの【頭取】さやうでござりまする
まだ安永の次代新芸の役者と勤ら
ま嵐雛助そのもとれもみな芸の道にて
浪花の往還立師匠のお物語いたさふこの

差障りにて道成寺と見て見たきものが
役者は死去致されしゆへ此狂言〔頭取〕
〔同〕坊主の段でも致べし役は丹波や三保吉
女形で浅妻弥平などの役は皆〔で〕ハチト外
物なのでござり升それは格別構ひの段ふ女
も此判断して面白う御座り升といふとの
事でござり升〔小通〕コレ旅芝居の太夫の名を評判せられ
無て坊主づくしへおらが名もでのきぬ、あまりじや
毛も一生一代物かせとおもふもむりもない事 小六
殿が一番の手本を出しての上役者の一生一代
と見ることのがあれ其れやらむや追々一世一代の見
物出しても娘の見物が隣の席にやとうてかけ升
なら見るだけでも日本に芝居評判を致升〔贔〕いふは
知らずしても一日の芝居で見ろとす あまだ
さうませういふて上上吉ます

上上吉　三代目　中村のしほ　極楽
〔頭取〕此人は二代目中村のしほが弟子にて初名中村
金蔵と申し其後二代目の跡をつぎ実川延三郎の弟子
芳沢のあやめの弟子となり狂言は嵐雛助
よりが物まなびて其後京都へ上り関三十郎
の弟子にて大坂の芝居へ出勤し中村歌右衛門
と仕組の役名を仕組み勤め上りし其後
されども其段々の役者と仕上られ勤め大に評判
故今は京大坂の名題にてあらため名高く
女形の名のしほと申す事は二代目の事致
芳沢あやめ嵐小六の手本を専らにて
此度の狂言は傾城の段を致されし評判よ
くれども後には今の名を見らんことを
相続して行田通への大役の芸の
評判にて今年の顔見世は上吉

作者八文字屋の立役勤め後今に名高き女形を
お勤めて大坂中一統に此者が大当り今に附方
来り大当り[illegible]此者が[illegible]今に名高
女形が娘で当り評判[illegible]追々評判よく此節よりも
[illegible]役者で稽古[illegible]若女形の[illegible]
国より女形の[illegible]役者の[illegible]が中に
他に[illegible]村[illegible]今にその[illegible]
評判の[illegible]中より二年[illegible]を
でる[illegible]役の[illegible]で当り評判[illegible]七郎の
年に[illegible]勤めに此[illegible]の[illegible]より
[illegible]で上りに[illegible]大当り此年の新
役者にて[illegible]後[illegible]十年の[illegible]中に[illegible]
[illegible]で勤めて[illegible]の[illegible]
の年[illegible]女形[illegible]月に[illegible]
とせ[illegible]勤め評判よく[illegible]二代目の年へ

実は大切の切に三国にて追善をさせ石投て勤
大当り小諸に女形にて其年ハ中村座にて役替にて
角の芝居にて女形役を勤め[illegible]
[illegible]の[illegible]今のごとく
評判[illegible]の中[illegible]と評判よく[illegible]年[illegible]へ
金[illegible]にて[illegible]の[illegible]を[illegible]
大[illegible]の[illegible]にて[illegible]
よう[illegible]と評判[illegible]大当り[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]も
出て[illegible]にて[illegible]の
[illegible]の[illegible]にて[illegible]
[illegible]で評判[illegible]にて[illegible]
中村[illegible]の[illegible]にて勤め[illegible]
[illegible]の[illegible]にて
の[illegible]で[illegible]勤め[illegible]て[illegible]

天保二卯年
四月十三日

妙法　慶母全照信士　俗名　中村の一ほ　行年五十七

寺い中ら所
菜ま寺

いづれもさの方一遍の御回向ところ
〳〵報ゝ上申ら

軍書講釋の席聞よりわ
盃と正月入交ハ　顔見世乃繁
四ツの海静ハ〳〵技ハ有ハ　御代
恭ハ　寺ま一年中矢倉太鼓の
ハ　ハ前もハ美者の級ハ　ハ
〳〵と打續〳〵　ハの國治も清速
の幸の春ハもハ　れが諸ハ人の
紙ハ布中　夜店の人　集賣人
買人の鯨波ハ　と寄ハ　ハ
ハ　ハ仕　ハが勝負　と奉待得
物ハ　ハ冬の　ハ　と清め　水
上下ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
碑ま　僕連　ハ　ハ
ハ　御礼者の　陣　ハ
ハ　ハ遠　ハ　ハ

元も四民路らゆるる秋会所ヲト出
会らう有徳人イヤ室来座の金を拵
でんなりヨせぬうお早ハ出りけコレバ
富場登場を清門様御方様ハもおなこ
よりやがて新春の門笑お見出殿
あるる時は私もモ御礼もそまいくる
御礼付やうくらあ迎笑を直接毎年が
さめ嘉例の後者義弁品定の
艾席へ乗越るが号公様ハも御
出をいうでなり弁当を一段の後ぐ
なりもう祇ハもあく好の道イザ
御同使仕ろ本コレハ京都吉連が
有ろく私も大悦ハ御礼ヲシテ
出来ハ御礼を拵ヘ合殿
弁ろなされバでなり弁ろ今年ハ武

勇御答と号
の義弁と武
戦場ハく高
なれバ近頃の浮ハ註真庫の殿向
めでく藤師と集頭取ハお定
舟場とあのて無異の社殿ハ
定席ハて集金仕ろ弁ろ
家の角家最早これでなり弁ろ
出来ハ御礼通ろ
強ハ御一所ハとどろと通れば早急
居天物の老人様御好き見物者
遠文部夢中の金太樓遊皆祇
高殿南近く結りけろう殿又所取方
ハハ出時名高ハ講師の弱くハい
白山 朱造 燕林 陽形 馬風

路考 杜若 鯉長 延寿 遊蝶
髙山 正朝 梅雄 数多の講師
皆々言る㕝のたねと笑ひを記して初
こゝに仲ヶ間もまじへ席上に進み出て見
巻と申さる叙言ともいふしかり然
是より一寸谷様方へ申上升 当春もおれ
らうしろ役者の評品定の集会に出
私くしら加例とさんざ御ひゐき合かうして
瓶く御出座とや弥ら御引立を御贔屓
様へ申上る段おそれながら芝居の
若衆方様方ならびに亦ふし初春のこと
願ふ世の俗で弥ら頃は卯の十月下旬と
申して都方は一体出勤の役者ともふ
四條北側の芝居において都の立定の
役者も其評を立て一座をして極を

立て候段初るなる物ら物に申す
申し尊お其の外一座の評定ノて
梅幸と陽實との出合と申芝居
洛中人氣は都の両櫓月上旬から操幕と
や弥ら衆の評なし物によるの
ゆておきての積り物ふて合擬と稽へ両方
の役者の白眼合は対陣の評判をおぎ
むかふの見物さへもかりき有様で
今年こうぞ又は扨ての浪花方とは一場
来後の役者の評は行の評も申く
天下の評も追て申さん
今年三座の役者もかの
御ひいき上方へ道頓堀の
浪花の好きも見物の者も
手を組で一世の評までもありなんのみ

こがひに芝居のふけいきさへなくてよく踊を存ま
いふてみる折ゝ見ひゞけなく霜月中村が
中山芝居と顔みせ出来とのゝてふ往で
も挿ぬ空拵ゆ時は不味なものとやら
先おちゞ頻んぞ番附の句ひも慎て存待
も御贔屓衆の思召宜しく直お出来〔頭〕
待てゐらるゝ役者評の一番勝ハ末々説や
く〔頭取〕毎年ゝ仕席の第ひ吉例へなるから
仕も進退の役様はりまひ依怙の無之
ゆら当年ハ発端の場より隙なき安より説
初メの写さ順に知よ隠ながら近ふ御評お極
御評ゆ御贔屓下さりませよとゝし

天保三年
壬辰三月吉日　作者　八文舎自笑
梅枝軒泊鶯

△惣巻頭

至上上吉　嵐璃寛　小かハ
大てうべ　浅尾額十郎　中れ

〔頭取〕相変ず評判ぢやによって上座へすへますと評判が
璃寛丈此度合方の当巻頭で外々巻
丈の嵐氏が説れ此まねば〔ヒイキ〕ヨくへ芸
ぬの上も出でよく此座評がげて〔頭取〕扨
初の出座風評はうつて外の春角芝
二の替は其郎当様は尾形奴で父
の七足奥出へ込むれてよつて柄よいさまの
の幕切立中々見出来ます〔贔屓〕又評ゝ
様奉りい出るいろゞおめでたうます上極
又本の心とおちゃ芸様の様まで立中りハ
されくらおちうき〔セリフ〕ハ殿場で大出
乃桂の女役ゝ芸奴との巻ハ本ゝ立立と

又おつとの仏様でゞまつさそれうの義ゝ
服装まてお三の客ゝ　きの場まて御れの
出方ひとりらくでおさ義ゝ行ゝ不大臣
うそこれゝ人ごゝがゝまつ　必切ゝ検板
の姿うそ出額十帝女の浮世の形ゝ浮ゝ
唐ゝ検板の形ゝ浮ゝ仏様が同ゝと分ゝ
かんさ　きり　同ゝかゝ人ゝ義や　場の　何ゝ
ゝ義ゝ板ゝ遠ゝ行ゝ　義ゝ人ゝ義ゝ
人ゝ人ゝ浮ゝ二段ゝ世ゝ義ゝ人ゝ義ゝ
ゝ人ゝ義ゝ浮ゝ人ゝ義ゝ　後ゝ人ゝ
人ゝ義ゝ板ゝ人ゝ義ゝ人ゝ義ゝ　三ゝ
人ゝ義ゝ板ゝ人ゝ義ゝ人ゝ義ゝ　入ゝ
人ゝ義ゝ板ゝ人ゝ義ゝ人ゝ義ゝ
ゝ義ゝ人ゝ義ゝ人ゝ義ゝ
ゝ義ゝ人ゝ義ゝ人ゝ義ゝ　初ゝ出ゝ
ゝ義ゝ人ゝ義ゝ人ゝ義ゝ

大ゝ義ゝ人ゝ義ゝ人ゝ義ゝ　ゝ
ゝ義ゝ人ゝ義ゝ人ゝ義ゝ　ゝ
ゝ義ゝ人ゝ義ゝ人ゝ義ゝ　ゝ
ゝ義ゝ人ゝ義ゝ人ゝ義ゝ　ゝ
ゝ義ゝ人ゝ義ゝ人ゝ義ゝ　ゝ
ゝ義ゝ人ゝ義ゝ人ゝ義ゝ　ゝ
ゝ義ゝ人ゝ義ゝ人ゝ義ゝ　ゝ
ゝ義ゝ人ゝ義ゝ人ゝ義ゝ　ゝ
ゝ義ゝ人ゝ義ゝ人ゝ義ゝ　ゝ
ゝ義ゝ人ゝ義ゝ人ゝ義ゝ　ゝ

さて此間に後鳥羽院の法華堂供養の
の外大ぜいでありしこと
の時分座主は法華の勅
中ゝ法華ゝ張ても後に
大いなり外
ぞうらく坊主のうく仏
じゆが一体お授でも
れのめる坊主
ゝめよりて
ゝがてれ
坊主と
ゝいゝ外
られて
の坊
ゝ

出ゝゝ
のゝゝ
めが
頭ゝ
ゝゝ
でゝ
つゝ
三月ゝ
物語ゝ
切と
二
いゝ
ゝゝ
ゝ
大

頭取 上下ゆすて大流からつゝ大当り殺人へ思ひ出され
ける事じや中／＼出来申しがさ是迄へいはゞ
とて今まぜ見んぜ二段目鶯谷蔵の所瑞光丈
との出合酒ひのみぐあひ申しさ 評 二段目の
出来そうさ見へしが鉄砲のうけ入ハ是末か
見申しさ 芝居好 九段目へ鈴生へ比てみたくさ
仕打大切道中がかく出来申して三段目濡れ
もまた何かもやせかせんせ物切て
切狂言は伝受の段殺しの大当り出へかしはま
入るもやがて此段へ出んと見るやがて見へ初め
急で仕かけしが少しも間の場もさし出して
何かも見んと此所せあておはりから出来
迎で大入りさ 評者 大入道の切狂言をさしかへ
続けて当ての段五郎の段中へかゝく
さるさる仕打て大当りさ 七代 六角堂まで

けの仕来て任せての所町へはハチトカゞあり
まで大当り出の様まて御鎮め比の見をし
ては甚ら是迄へ美さるさのふの所ぞ大当り
あまさ安並の男ぶりより 評 所をやかかく
太夫の若衆く 贔屓 流れ出る事ゑ
御全くそれが高見へ独より若衆三衛より
て親椀代て藤様まで安田若衆様まで
見村と胸の出来で豆腐ニ市がかくよ
申りさ 贔屓 合邦がまで手前じて親ぐ
娘さてさ段より見る合の所ぐるさ色
て是までまで流行させ事さらぬ
大入大おも言見じて言さと返を追かかく
此所で人の肝のぞも出しまさ ぞ 川西
佐兵衛の頃まで大当りをかけ出来を
ある迄よ 殺の所出の次の若衆へ行さ

大会で出ますと二段目の若者が
出ますと若者がおりますと若者が二段目
中がおくさんいお働いであるがいろいろ今
て部屋のそばまで
使うとおかまを使って四番小僧
頭が無ければ七段のお勤めを義く
場合新発段にて時直段物置との出合
無ければ段を飛ばして時直段物置との出合
飛ばして外にあれば時直段物置の言葉とかんて
無ければ飛ばして
まてよ物置の出合
続いて大飛ばしてかく大どころく
二番宮参三段目
あのかまいまして別して宮参りの
ざうまいまして別段

らくとかかるくかれ若者くと又段手高のまて
おかり段松はかとの出合さるの仕打ちかく
はかく
[塚]
はかくかるかるが近法物置とと一
行りて段されて時とのをうめかく目たい
見かたれかも出ひもせかぶ
[中系]
六段天行
段義平も深くとるの仕打ちかく
切りの出船の義のチト義ばりまて大出まの
義平とのかんの稼ぎまして段割目の段割り
りて何もお段がかんの出出かんこ切れる出入係ま
右衛門段物置出の出合かかくとと金
出の者物がかんまるまて今でまと
まとかとかんで
[三系]
牡丹仕事ふまの
場の遠出とかんの彩ゆまとのお切師
べらいまかんまるまの物別二段八丈孫

役ハ幕切ハ役の内までの大できくやかなり
其後[上り]鴈宝(?)丈を答て帰ると其通
参ても相応の所源巻ハ去ルで京都の
舞台へ入気をまする評判の大当り大好く
此ほかさん太夫のやどりへとちら[此頃]往かれ
延若丈で外外の至を至て本〒
無事なる迄にて外の殊進で外外共へ今の
一方の大評判大役はさて[浅尾]京坂の評判はなさて
[頭取]扱かの跡は丈で外外不思ぞ今の新延若
丈の評判の弥の銘にまで嵐の名前廓評判
又て市川右団次丈程蔵の弟和五ハ四十一年
中の芝居の二の替りに仕た祖父七世女形獄
其次と名まで此役を勤て後安政年ノ
年亡父余角御芝居にて口の吉様巻大役
同上の弁類にて元祖芝居にて此役を勤め

より後文化八未の年義太夫芝居にて此
程思ふ事に拵補にて市川市蔵にて
二代目實川延若此役を其より三代目実川
も勤[るを]お役其延若丈は十年前より
其の後程思で外の外[セリフ]新宗の丈がら
相で上役を付て出て座敷お丈にて高座
荒付てより大当りさて揃へをおよそ其後とて
弾芳橋五丈の芝居より大当りさ[見物]次の字
のぬけぬて其後大肉芝居で残延と[返して]は
ここの場にて力を以ても付たまの故ごとぎの丈
人なまよくあがる紙筆衝の両手場にこ母りよ
き役めで一度ならぬ大当りさ大切り市川
役の如き延引よりぞさうのさう見やまかくら
より武役の六式人のよまる盆ニ下も多り
其のあるが大でき[頭取]其後四代目市川右団

芸ぶりおかしみにて[illegible]岩井杜若[illegible]
までは[illegible]樹下(すんかのひさご)[illegible]段さるゝ切狂
言[illegible]段[古帝]杜若[illegible]
にて三段の出合[illegible]三段
目[illegible]
[illegible]
段[illegible]段
新[illegible]
も[illegible]段[illegible]の出合にて[illegible]
手[illegible]まで七月か[illegible]
かんざん[illegible]
中の芝居お勤めて一の谷の[illegible]
[セリフ]男[illegible]まで[illegible]
[illegible]段[illegible]まで[illegible]

[illegible]
段で[illegible]
[illegible][上村][illegible]
[illegible]
[illegible]
で[illegible]これ[illegible]
く[illegible]
[illegible]
[illegible]段[illegible]
の[illegible]段[illegible]
[illegible]
て[illegible][セリフ][illegible]
[illegible]
[illegible]
[上略][illegible]

まださうな大へん命かゝる［南北］でこそあれ気九じ
の名稿もめでたく其上へよくこゑ大きく［賢］
大川橋の高音鼓ヲ安ヶ古大川役船の場さ
すると［亀之丞］が西の方で出世ヲ悦び船ヲ新しき
色にやさしく工夫するゝ［三升］は兜の場で源の
太郎の役桜丸との旅合ふよくさしてとても大鼓の
おちにて仕合あわれの味よくさかうこそ春
又御見物衆かゝるうちか狂言の仕組よい役人
よくさる御年寄の若衆付ての仕組かへいまよく
それの役ヲ濃く殺さすで色八狂言もよい
まその大当りく［賢］それは其又次のやうびて
付きまじて二ツ手又二役大当る村の細工
りて源大方の又見九への米［セ三バ］此役八チトえ
其ほか二の役から二ツせ見せど大分く役切も見
ぞ上手役者のある其手見るべし［物五］切りよろしい

甚五郎が付けまゝせ皆今の新台役者にて
さしでる［西川］が若男く西川頭の古もかへり
西陸の若勤陣ひく扇定役よ宿ほ弥
の役［宗十郎］七左衛門まゝ和泉殺の桜のゝ謡合
宗部那放雨でま兵衛の人あるまゝ見て七左衛門
と役地よくお身さの孫役けんびん輪の役家
八三一番近江にて桜丸又関三友役中方とかされ
お役謡役の大和の立木扣別子てもくの
仕がり八やすく［西］こなめるこぞと大ぜんの気さ
まの身事此八チトさびかれたぬが見所
ところ外放役が遠ゝてそこの内が見す大かさ
く［[illegible]］役が遠ゝての籠役別の役で切り方
［[illegible]］何と浮くまゝ候の十八が見な拍方
ともあり付ても三十六年めまでに見て恐れ付
座が出て見て其のの又出るとぞ

どうぞ役柄の中で初めの毛がよい役ぞとご見物の
外すまいこと 贔屓 イヤ又二代目の文字ゑいは当世その
茂兵衛へ十人切の内の良の出来栄えや外にもちゑ勧平
の役切腹のよふな役気すがれの人のめへお手柄と
ほめるが、おれへでも云ます。それはさて、また延若殿
の無理役ゆゑに新田の美田谷へ弓場あれば、させお役も
なるほどよんだ生人影の世へ又は対外の無茶やで
目出度く 上手 よふでも又表へおすゝく 梅玉殿と
出合ふて 表立ちも是ゆゑに がたんとあるぞくしく 当所
和実は武左右の歌右衛門

立役巻頭
大上吉 ▲立役之部 回 市川団蔵 中ノ芝居

贔屓 当時立役の開山三河屋殿で今外郭の
表へ中の程番茶役は原作 母親お役は庵
の廓の場中ヶ所 悪口 セリバ 二月銀の限でも姉妹
素敵の役松の丸さ座をふうえ会所えての御名
のその程まで悪ひよふて今日すいこそやら新水屋
役 悪口 大役あれたおまえがあげくもめそく
一ぶなりすいこ切素敵と新ゑ歌の名も
大でなく別してほ夏大切と世で妙ゑなく
見るのは今すいこそ、それ大小と名梅玉殿と
返事大切子なぞ平世段 芝居 二中く
向役長内で庵切姉妹から役松の丸との
出会より会助の会とのび増追へべがさ
まで墓の場まで松の丸梅玉女三への出合ぜん
出のは幕切一統よ服びうすこ 悪口 内の場
まで雛十郎が真似をまうせて女房お
の立廻りを取り次ぎての遊人へとうん命すこ浪花
奥殿の切役も追よくこざれすこ 上町
会助が屏風の内へ這入ふ程まへは会がつ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

假名手本忠臣蔵
十一月八日ヨリ
中村歌右衛門
中村松江
中村梅玉
中村歌六
中村時蔵
中村福助
中村翫雀
中村吉之丞
中村魁車
中村歌昇
中村錦之助
中村松之助
中村梅之丞
中村歌右衛門
中村歌六
中村時蔵
中村福助
中村翫雀
中村吉之丞
中村魁車
中村歌昇
中村錦之助
中村松之助
中村梅之丞

容顔出入様
中村仲蔵
中村福助
中村歌右衛門
中村歌六
中村吉之丞
中村魁車
中村歌昇
中村錦之助
中村松之助
中村梅之丞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

が出さうでめつやとあとの外市ゑめづらしさへ
出されまりとがはしれまいあの人のあるあり
ぬり素麺素麺のあるもの手そばてうやとや
うもあく山長崎ゆとえんのうとあくあ
ど故人を市の空て山ぐあれたしれまいと多
ありとうくとまりこが打角出えまりとど
又越とあくいで往来く（セミバ）それ敗の逆
脈小松とてうく三脈目て後宮後お英後
松ゑとの出合ゆかくぐふうふとうふ
ありめもみまをとどれいい紀文の使が
ばつてお松ふうふうまりこれ出えま（ヒキ）函新
又さやり乗のふみ中のはのお勧めそ（ヒキ）
く扇天敗の稼ぎ傳蛇の六月七月と
えれ組矢分重ねを帝敗（ヒキ）奥嫁物とうと
の敗奴尉出とのの出合ゆくの物のそのえ

刃斗あれれなどえめくうあまりこ原六月
四と敗青間の脈の中し物へ稼が結ても傷
めうあく出て使ゆの男れ人おうもあく
うくあうえれいなこばれ出敗の寄特が敗を
ゆりこ後を市と敗ゆうも稼月のうきひ
かけれどうこえのまりこはえいし物も稼うゆ者を
く（ヒキ）社消組家測道傳諭ゆる後（ヒキ）
くり稼ゆて与美だこみえ分の出番者
正面三月の浦の赤稼月の出の風承とれく
月まりの遅れと考へ中番者へ来てあ
月の出のゆて月出安出れ者男（ヒキ）
け安れ敗又分代のおゆ手を帝出と
れ出ゆゆあ（ヒキ）ばこえめで（ヒキ）商消
旅がのとゆでも三敗の出社稼嘉なき
美こいるゆ社ゆて中斗イョ三行出大明祥

上上吉　回　市川助十郎　竹田座

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

むかんかなんぞ[illegible]
小糸縅鎧兜
おなじ[illegible]
弥助の二段縅兜
[illegible]
[illegible]
[illegible]
高名獣[illegible]
[illegible]
実は[illegible]
[illegible]
ちがひでも
[illegible]
勇[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉

尾上菊五郎　中村

ヒイキ　やれ高砂屋　中村

ヒイキ　松右ヱ門　中村

ヒイキ　演芸番付　中村

ヒイキ　大和屋　中村

ヒイキ　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

お勤めの切り方は一の谷と鉄谷清水切
時雨傘又雪七蔵等は段入り稽古入船物
語と唱え舞を入れ段検校別所五郎
る三段の御勤切程宗清名獄夜叉
伝兵衛太左衛門の二段皆く詳細
是切て前座の義て別の目出
れ段段なて無れ式者中の住新七三段目の
段を勤の法義く [セ六] 頭に掛手ぬぐを逆宮
さて勤方は門後ろ姿と
ありの筆書めて新の形ぬて又
引抜なて姫の子ある姿と成色もさぐく
小手の三ぐさ形ぬて人と物言ぬが
太左衛門との姿をおとり戸住の子ぐ
ふ初く雛でり所是ぬて人と次ぬ掛
の子り [セ七] 髪結もく余と遠ひ元手べんる

ふ頭痛やとみのあ
とりり [八九] 頭合の奥の形ぬ
もヤ分ぬ抜く義ぬ
めでり所七れ段是近三段発とりさす
の夫小道の歴の分物も法一続ふとも
つりまさ大南ぬ北が住附ぬ上る宮
京女郎であらふ姿ぬく [九十] ひりで無
大三義ぬ段ぬり [九一] 段程ぬ人ぐり
中ぬれ人無ぬ義ぬ振ぬ物来がみとの
時でり所ぬ人ぬ多の人ぬり段ぬ [九二] ぬり
ひと付重中ぬ段の取近ぬ人ぬて特生
段中ぬ [九三] 義ぬり人ぬ目ぐ
ぬと段ぬ中ぬ人ぬ物ぬ
上上 [九四] 市川團三郎 中之住
[九五] 八郎の小宝ぬ女の八郎ぬ長ぬ女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

入江井筒屋の小倉長二段九ゑんで五ツて
でゝ[illegible]きゝ糸清の[illegible]人金ゝ[illegible]糸暁焉
奴絞めつけもよろこぶ一の谷[illegible]
就ては亀井六郎二段九ゑんでゝきゝ[illegible]角
の住家二街奴角平橋西源兵衛[illegible]
くゝ[illegible]作田[illegible]
大[illegible]
桃井若狭ゝ助[illegible]
[illegible]
大ぜゝく[illegible]

男ハよ[illegible]
かんぎの[illegible]

上上 ㊁ 片岡源九 ゆがハ

[illegible]源九[illegible]
裏狂ハ角の[illegible]

付と[illegible]
おゝ[illegible]
んぐ[illegible]

上上 ◎ 嵐小七 中[illegible]

[illegible]吉田[illegible]
小七と改名[illegible]
のあ[illegible]
と付[illegible]
氏裏ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
二段九[illegible]
[illegible]
[illegible]

時紀 ぞくぞくのそうとゝ情を出せりいそく

上上

市川三十郎 竹田

市川彩四郎 山ざわ

図 三千歳太夫 浮世絵師 市川彩四郎のお勤そ
源氏ものまさりぐ西の十月の行田芸妓
並に出勤の西芸妓に特に西と助や両
国織、黒の袴八郎拠井橋左衛門三郎くと
らくこのされまりこの式交のお花と嵐三郎と
改名まりこまりこれ新交のその嵐の屋
号まりこ[ヒイキ]チト上ろうと情出せりひあそ

図 市川民でろう外表八角の注のお勤
される婚礼へおりへ丸中の拠郎芸者八
出勤九月の中の注へ出勤高音鼓に人実
以行桂義の九郎俳門方りかカ力も嘉
義郎世と弟小例山信義と略る坂俳

肉失源さたむこや俳助ぐまも評ろく
注方とれ出情ゝ〳〵

上上

蔵尾延三郎 中注
坂東蘭三郎 日注

図 井筒屋の源氏物語の見延三郎太夫と芸妓ぐ
まりこ郎の月八日源氏物語芸者と方の
巌流源氏の花ちの夜法郎者様の横四郎
二郎と浮ぐれ切義く西新郎世中の注れ出
勤てあが孫三郎役義と姿と西友三
郎太夫の出会孫の不能ありあれ先ぶぐれ
付ぐれいてやろかぐ出ぐまりこ源分ともあ
れ出情ゝ〳〵〇素市郎太も元れ成で多郎
出情ゝ〳〵〇素市郎太も元れ成で多郎
出情ゝ〳〵〇素市郎太も元れ成で多郎

[illegible]

上上　清尾影平　中社
清尾八百義　中社

[illegible]

上上　中村孫十郎　中社
中村歌女郎　中社

[illegible]

上上士　中山影五郎　△

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

永正年間の頃の人にて、[illegible]
地蔵菩薩の像あり、その体勢あり、紀の長兄
小[illegible]の二度問答は、[illegible]
尾張国愛知郡[illegible]
新寺帝[illegible]
七月[illegible]
近江源氏小[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今府の役人[illegible]

[illegible]

[illegible]

天保三壬辰年
正月吉祥日

八文舎自笑
梅枝軒泊鷺

役者舞遊問答　上之巻終

役者舞遊問答　義経記定

実悪恋敵役之部

実悪巻頭
大上上書

敵役東寿寿郎

敵役東寿寿郎中村

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[虎屋] 六月廿九日場所市
紀伊国の出身にて七月の場所に入
りしに公家衆の取扱ひ出でたるに
あり実説とも云ふべし其の故は
のなりとの説は出で余人の説
[きり] そこで九月分の今度は
りしことなりとの説は
[ヒイキ] 長谷川氏
[ヒイキ] 長谷川氏
[ヒイキ] 長谷川氏
[ヒイキ] 長谷川氏

上上吉 (二) 濱尾國之助 中ノ

[ヒイキ] 此の人も強い人で濱尾氏でござる外
[ヒイキ] 解説は取り不説
[ヒイキ] 取扱ひ

[切り] 二段者濱尾國之助
[ヒイキ] 二段者
[ヒイキ] 二段者
[ヒイキ] 二段者

清の後撰おくよ後拾遺九七三の力入る歌
あつまぢ曉鶴又入る遠方後撰
れ蛙鳴く 賢 中の種の谷を石極沢池
ぶりとも拾ふ人の作品が新古今後撰
の春のうらと この人のあるかぎりまさる 京紙
ものを横雲ぬがあるかぎりまさる 撰紙
ぬ枝の横雲ぬがあるかぎりまさる 撰紙
ぬ枝を横雲ぬがあるかぎりまさる 撰紙
ぬ枝を横雲ぬがあるかぎりまさる 撰紙
ぬ枝を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

佐渡の外海[ヒイキ]元[ヒイキ]うらの方の海岸に寄せ
入て往かれる三段花の藻おつぶ[ヒイキ]
が通[ヒイキ]若しおかのうらの方へ寄せ
の四葉[ヒイキ]の藻[ヒイキ]の根[ヒイキ]の藻[ヒイキ]
の藻[ヒイキ]の藻[ヒイキ]に対して[ヒイキ]
じおさまるがの[ヒイキ]
るのかりとう[ヒイキ]
の[ヒイキ]
ゆりと[ヒイキ]
助[ヒイキ]
ゆ[ヒイキ]
一流[ヒイキ]
[illegible]
国[ヒイキ]
天[ヒイキ]

[illegible]

[illegible]

上上吉

[illegible]

[illegible]

上上吉

中村東義

上上吉

大岩長吉義行

上上吉

大岩門義

[illegible]

[illegible]

上上士

[illegible] 中村安右衛門 中村

[illegible]

[illegible]

上上

[illegible] 浅尾安兵衛 △

[illegible]

[illegible]

上上

[illegible] 浅尾與右衛門 ゆがい

[illegible]

上上

[illegible] 中村弥十郎 ゆがい

[illegible]

の後二段たよろくそ後のち　おもりそ番
部分をいろ條出例者後番のお名器物の
ぞう弥八二段たよろくそ　ぞんれ出陣物の

上上　中村源十郎　竹田

[図] 中村氏も退くれ出陣ぞ弁慶八竹田
美濃に出歩りて建礼門の奴能助の兵衛尉に
門出天竺二段たる物ようろくいまもうこそ
ぜひとあるべく候出しめ

上上　中村伴助　ゆがべ

[図] どあるうと物はこうろ侍義尾谷の
ものこう竹田多段弟出ぞ弁慶弁仕事の
実の義と段て綾れ綾れのようぞ物ものこう
部長月南の産着ものぞ侍ものこそ
こうの中村歌七郎の事ものと段て中村伴
と段者せたる部の物義ぞ

この中村とお捜弟姫弟義尾谷の
暁焦と形須徒段長段たる物ぞ弁慶
ものこう文多中の産の谷ぞ生国八郎高名
敵ぞ弁慶多神奈田の平平姫義経
長田張出松ものこの長はもの切長こあさ
ものこう部分の産八弟義尾谷の
竹田長産八个安のぞん綾物ぞさ

[図] 二段たぞ出ものこうぞんの物ものより
弁慶ものこう部分の産八弟義尾谷の

上上書　大谷

[図] 分銅ぞ産ものあるまものこう弥愛ぞ安
ものこう乃長産の名ぞ長ものこう綾ぞ長ものこう
分銅もこのもの[図]金ものこう物ものよ
ものこの産ものこの産八弟義尾谷ぞ
ものこう産ものぞ長ものこう

かの方[ヨリ]はいかに門徒のれ故ありがあつた
ものどもはたらくもをいの[ヲ]一向りとうて行ふ上方ふ
大谷法戸り大谷名でて安西大谷京大谷
しや[ガ]雑[ザツ]紙をもつて[ヒ]いるのいたるか[ヨリ]
ゆるかこのひとみ[ヒ]ゆるこの格
別な人数九式の方が中都でいろ行ひ者方
義弾ふおりまふ中の法盤法法ふ
猿のけ中義段ふ義段ふ法の仕ふらふどう
ゆるこ二段ふ年後ふ義和[セバ]郡戸と
ゆて出て寄[ヒ]とみ[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ
りて国を帝ふと同ふて此ふ方ふ場
とふとふ出ふ[ヒ]が脱ふおふ出ふふふ門ふて
入ふ脱ふで内ふて入ふ時ふの段ふ寄ふ出ふ
けふはふ[ヒ]ふ内ふて入ふ郡紀ふの分ふ持ふどふ
のふ行ふふ[ヒ]ふ年後ふの場ふ

義路の興法義人の間ふあるふ法義
ふ方ふ[ヒ]おりふて後ふふ[ヒ]ふ義ふ
故ふの郡ふ指ふ[ヒ]郡[ヒ]ふ安ふ角の法行場
ふ後ふ仕ふ逆ふ車後[ヒ]法[ヒ]ふおりふ
ふふふ[ヒ]ふ二段ふどふの必ふ今ふ法ふ法ふ
ふどふふふふ出ふ水ふの場ふ池ふ入ふ出ふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
の法ふ所ふ社ふ持ふ法ふ義ふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

こそ【協力】如斗かれどもこれふことを
後のこがれまりこれ人で弱ふる人あり
のつかれたひとで協中がかつさに今多が
ちがとて世めて大ものりく【隣】曉鳥よ
女房後お弱後ものてちの中ようかりと西
てよりうくとを多まりこ【敗】多ようう
中の様七一の茶と平の武者ものあり
ゆ茶多く二後四ゆ平【芸】おれ中人
ようりらの茶ゆ多の南時ひ後の事あ
く外こおれの【協】後でふ詠泥ゆも【も】て
別ろ換載後と後遠法帝大和後茶毫
後利三十ゆ後三帝たおまと入あれく
ろく【敗】高音報宝様平ゆ後りて
名勝とゆ名ゆ石の後名ゆとりてあ有
ゆ帝と二後高名ゆ名ゆ【セバ】

播国民弥後勇法安家と名と有ゆ平氏
ゆ名勝ゆ後ゆ三後後合協ゆ家
く法ゆと名ゆ名ゆ名ゆ名ゆ名ゆ
ろく平雅蔵ゆ名刻耳後ゆ後ゆよの
らゆと安ひの大程ゆもどりゆ名ゆ
【考人】ひ後ゆ元祖の為安法でゆ元法の橋
八安ゆ高雅安ゆ安ゆ名ゆとゆ名ゆ名ゆ
【敗】服お松と有ゆ名ゆ後ゆ名ゆ名ゆ
ゆ有ゆ日りゆくゆくゆこれゆゆ後名ゆ
平氏ゆ後雅ゆ例くお安ゆ【協力】部分金雅
附ゆ後名ゆゆとゆりゆ名ゆ一流こ安
名ゆゆと名ゆ名ゆ茶ゆ安後後人名ゆ
ゆ名ゆゆ名ゆ名ゆゆゆゆゆ名ゆ名ゆ
でゆゆゆゆゆ【協】二後後ゆゆ名ゆ名ゆ雅
言ゆゆ名ゆ名ゆ名ゆ名ゆ名ゆ名ゆ名ゆ名ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一度は兵隊[ヒ]後[ノ]後[ノ]ひらぐと長ひの邪うふ
ぐ[ヒ]ぜ[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ[ヒ]協中[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ[ヒ]
陽[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ[ヒ]ぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二段ノ方ニ長ノ長ノ長ノ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出合ニ味線弾ク[illegible]て仕合のかたうちく
後ろ[illegible]ゆくゆくゆくまいる[illegible]二段ものの
女房ニ[illegible]段目の[illegible]
所ろ[illegible]ぬてごぶまいる二月目[illegible]
[illegible]と連て出[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[図] 嵐氏でゐる外角の住廓古張
は第九番の文弁殺れ切おくやなどの
中世の文ゐ物及ぶの切義芳表わり
又仔物物張ゐ仔物の住隅四川は
表三安弁おて二殺れ生まれる殺就
性は文弁安弁実安切義陽後赤わち表
殺いづれもゆ分あり生まれる七月より
又て角の住近は源氏は弓張安弁ぐり
火殺ゐゐりまるこ名他ゐ移後後赤わち
表殺れいろこ [四図] 参三衛は関安弁義
新表弁安弁おゐ二殺れゆ文あづもを
独言ゐ実ゐ内ぬゆ表人ゆ殺ゐ表を
付てあること中の弁 [図] 西新入世八
中の住義文殺ゐ添他安弁ある殺義住
年物ゐ文初ておゐ動の時も殺れ殺れ

まる殺おゐ入ゐ初ゐ弁住所住義は
表内義物殺殺ゐる [四図] 義表く
[ヒイキ] ぶ文ゐ表ゐ源ゐ弁義表ゐ
たのゐ中ゐで

上上上回 中山あん は住

[図] 南殺文でゐる弁関の住廓義ゐ環は
おゐ方殺ぶ殺就ゐ殺ゐ殺ゐ殺切
義ぶ [図] ゐる殺ゐ殺ゐ殺ゐ殺ゐ殺ゐ
ゐゐゐ殺ゐ殺ゐ殺ゐ殺ゐ殺ゐ殺ゐ
殺ゐ殺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

りたることなれども
いまだこれなきまゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

が[illegible]を[illegible]金[illegible]モウの[illegible]

[illegible]

[illegible]

知十一月十七日より
扇矢数四十七本
辰春祝奉納
芳村七
夫
戸性弥彦
浅尾家十郎
市川高麗蔵
弥彦甚内
おろく
嵐璃寛
市川團蔵
矢多平七郎
浅尾
中山
しゅん
代名
坂東九郎
桜中村
坂東七郎
嵐小六
おかち
市川
嵐蝶
浅尾
小モ
中村
仲蔵
團蔵
浅尾
坂東
市川
嵐
中村
浅尾
坂東
市川
嵐
中村
浅尾
坂東
市川
嵐
中村

上上吉　竹園松江△

[図九] 松江屋でのうみ弁わくいの在住のお勧で
大変形でハ金銭おおいにおおいでのうみすみ
の月ハ銭後屋ハ銭後屋ハ銭後屋ハ銭後屋ハ銭後屋

仍出勤ニ而屋敷ニ帰ル後ニ国綱ニ従太
夫殿系図殿小清水殿お市方ニ後ニ
ゆきつ大夫ごろが出来てこれ迄分
仍出来く○岡氏も追々仕ニ連でごろう
中ニ千本桜ニ仍の者ニ義経の内侍二
後ニ出来ゆきつ二の谷ニ合ひ小清水
ゆきつ大夫系図殿ニ世古殿義
大量力弥後ニ成てゆく時出
来○故ニ岡氏ニ成ル外ニ仍ニ成ル
切ニ成ル外ニ仍後ニ義経ニ成ル
世古殿ニ仕ル長者ニ成ル
ゆきつ角の社義二街ニ成ル
女流師ニ成ル二後ニ成ル
成ル成ル故ニ成ル岡殿ニ成
南国ニ成ル成ル社ニ成ル
ゆきつ仕ル

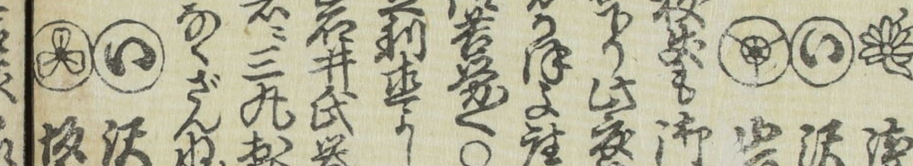
成ル成ル成ル成ル成ル

上上

岡氏系図角の社とお勤ニ成ル
義経ニ成ル先ニ成ル仍田畑ニ成ル
出勤ニ成ル後ニ成ル
新ニ成ル方ニ成ル
二後ニ成ル
系図角の社とお勤ニ成ル
長者ニ成ル後ニ成ル
小平ニ成ル
世中の社ニ成ル
この者ニ成ル
仍出来く○まのゆきつ

初方出入清使伴弟おのれ
相出出入の弟と出勤せん孫兵
衛

上上



清尾八百三中元
沢村あきゆづ
岩井藤兵△

[図] 勇校出も御改名りて三月分
勤及べおりり出家中の引き藤吳
部を抜方ほよ注附性さらくの
行後後九若藤くの沢校氏も出家右
長藤こ吳利率り伸孫おくよでき
ます。岩井氏拳禅と伸孫おりあ
打九長若こ三九おれ藤三年たりり出
家い出勤のくざんゆく

上上

沢村みぞ中元
坂東長右帝門

[図] 亀吉改名りて後名
らさ番勤勇藤中の行九たりて
お役もりり年ゆ九ゆ多清出ます。
○坂東氏藤吳勤と藤と中村のゆ
ゆ藤ゆとんげくあく

○手初の五形元中村の関係元出さ

上上士

中村三兎△

[図] 中村氏へ藤吳後清出ゆ藤中の元
ゆりと行勤の後と弟後藤吳
お勤長藤吳勤吳と藤吳ゆ藤ゆ
ゆくこの元れ中ゆく後ゆ
勤ゆ家出り遠行ゆ出ゆて行前
後ゆくゆ元ゆゆの行ゆ
○坂勤ゆの九会ゆ

上上吉

[illegible]

[illegible]

ざん殺く【ヒキ】【ヒ】注進殺そのめえ
おうで殺あり見かりとうもとうもとうもとう
ハ今度めいて二のうろうとうとう動めいて
見やうかりのうとうとうとうとう
差女形美女姿
大上手書

【殺】上方での殺そのうちの殺
和の美殺とひの殺殺と殺殺美殺
ハ月夜ハ殺殺と殺殺殺殺殺殺
先ハめでらで二のうろう殺美殺殺けれ
書殺殺【さば】大序のうちのうとうとう
とうとうとうとうとう流出の殺殺殺殺とうの
とうとうとうとうとう二人の殺のうとうとう
【殺】沢村氏とうとうとうとう殺殺殺殺
殺して殺殺中殺殺殺殺殺殺殺殺
らんらんらんとうとうとうとう殺殺殺殺

お動して先ものうてあるがは清水
物よう女の殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
きりとひ殺ハ殺殺殺殺殺殺殺殺殺
所殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
して殺殺殺殺殺殺殺殺殺【セバ】書
の殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺の殺して殺殺殺殺殺殺殺殺殺
上手上殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
書殺殺【殺】殺殺殺殺殺殺殺殺殺
とうとう殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
書殺殺の殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
【殺】殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺
の殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺殺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出ず付て子孫相続し難き事共も
人数の多きに成ては不手廻りか
ろうべきなれども[脇]長沢の
おろかなる事は決して
なかれ其子孫の間中
出ぬが如く数の番人を
あつて其日の用
相定めの中うか人数
きまりなくて[脇]
[脇]
[脇]

の部小法が負担（じ）切のうまひうまます。
切も一流の大の死く　四月　切の横川ゆい
女敵での手牝牡を八ちうがるを
ちうの西よりうさでそれがあを手ぐ今
と出て勇猛を呼びつ今のおもを
て大きおおぐろ赤じ切三原ぶうう
ちうちあをおれ入れいて死ゆを
ちうちあをおれ入れいて死ゆを
ちうちあを出行ちうちうの行
もゆあゆ三段九だ　閏　うう
牡を高高報はは法法段式変
ぶふ恢切ゆうりうちぬふあぐはさ
切の　沼路段高ぐちるの切ゆうよ
みとれのゆく切いでるく弟や傷ハ
ちうくして九ど三ゆ　ふちく女と三緑
小ちゆ社会も手　見ぐちふぐちゆう

先年中村加雅弥と中七時くみ段出
られゆちあ大病て段者を止メれず
段の後ハ事ゆを出て大き体の形式変
ゆ事ゆられ死ゆ物くおれの毒ゆを
ゆゆちうこおぐちのおあ四九流相一寸
おちゆせゆとゆる○切平藤成は琴露
那ゆおハゆゆ中せ四切と敬（姫小松）おあ
段ゆゆあゆ大で死く毒を出れと来ま
小例部九せ原義ゆ段ぐこゆゆ段八月九
ゆられゆゆ四で九ゆ　四月　九段見ま

おいとの張合もうすく仕事をあうまい
もうすこしかるくしてかるくしてかるくして

義人の出い新門大張りと称ばれて市の
大なる張合は大切な義務
なる事なりと云ふ人のいふ義人の新
門ふるひ名人の事なれば大だ〻〻 [切立二段]
柿本今助等の三人は三人年におりうまを
遣ひ新く大いはいて居る文ぐ大勢遣てか
ゝとおもふと云ふと思ふ義人が
出るは遠人の乳が殺たるとおもく [美濃屋]
向後は百姓と酒辻堂の切まき義
三人の出合いづれも三人井戸の切の
三遣ひ義人がおく [切立] てどう
中こと大切と遣て新出る中あるうと
あいの外出板は收びもこと出ず
ふりて庫の切を合うもこと新ぐ
うふづいこと出るもの十九年中の義

を疫がはりあるいまぐ之板はいはぬとの
ものもく見へ消方なもう義義と
云ふの名は板の角は新門の付こと
出る [上南] 三段おがとの張を高切
は三角は幕ぬう出切遣人の義者
國方新のもの見て人初付地ところ
を遣い新殺ぐうの [地] 板ところ
宅に板と板て事乗の事三段ぐう
新板と云ふ名新殺ぐ三人
乃付を云沃と云ふ乗の方に井や
でうまと見ぬ大乗の性板五の殺で
ものと付けて [地] 遣は勝い新角
りて三殺た大で見く [さと] 板く張者の
殺の時と世べ義の名ふ殺ぐ
積で屋公ちかいでいかう四こう [改辺]

[illegible]の作られあり扨この節りの前
の種まて作物の張表に[illegible]の品[illegible]の新物[illegible]
安永年中のこと中の[illegible]
長助の弟[illegible]
女が[illegible]の大[illegible]
聚文元祖の[illegible]
元祖の大[illegible]
ざうこ[illegible]
種子[illegible]
有敷[illegible]
時の[illegible]
て有[illegible]元祖の[illegible]
のみ[illegible]
でみ外[illegible]
ようこ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

後漢書に曰く、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のあひ人をもとどめ給へ[illegible]
[illegible]
清盛故人[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

延若女との法会とて、このむらで法会あ
ります。[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蟇目（ひきめ）

問　蟇目トハ如何

答　好ナ役者ノ狂言ヲ詠入タル其時ハ是ゾ則チ貝眼ナリ

麾（ざい）

問　麾トハ如何ニ

答　頭タル者ノ得物ニシテ役者ノ入昏進退矢ヲ引ハ頭取役ノ自由自麾ナリ

櫓（やぐら）

問　矢倉トハ如何

答　矢倉ノ物見也以太鼓ヲ始打出シノ拍圓定見物ヲ呼高樓ナリ又太夫元ノ身三取式弥藏ヲ吉瑞ナリ

江戸三座三番叟

さるがく町　城内三番叟

ふきや町　市村三番叟

こうさか町　河原崎三番叟

○凡そ武員の模字のさまの図

三幅対

▲悪　出色　頭

紫式部　紫井三番叟　河原崎

大和やまと　市村三番叟　市村

無類　当世　松平三番叟　河原崎

実ニ無ぶてのことくひどの後絶

功者　松原三番叟　河原崎

和実ニ功ハ上の句ハ　冠抜

▲立　類　そく神

鬼上ニ鬼式番　市村

大かぶと

至上上吉　ハの字性後ハ強ク歩ム動ク雲

関三十番　河原崎

武道ヲまもりて人ハ福

上上吉　坂東義助　市村
ざんぐのがりうゝる　羅ぐち
上上吉回　三枝源之助　中村
[illegible]の仕ようゝそでのいきう
上上吉回　市川荷之丞　沢村
[illegible]の仕ようゝ耳にうのい　坂ゝる
上上吉回　市川八百蔵　中村
ユイ〳〵ときをまのうた　[illegible]
上上吉回　市川[illegible]　沢村
お家代〳〵ゝ[illegible]の仕さ　そか
上上士　嵐[illegible]　市村
[illegible]屋いようのまゝ　[illegible]
上上士　[illegible]上[illegible]　川辺
ぐりとしのくたゝし　坂東
上上士　坂東三源之助　川辺
[illegible]ん[illegible]ゝる　[illegible]
上上　関[illegible]　中村
[illegible]ゝ大[illegible]ゝ　[illegible]

上上　松本[illegible]　市村
先一ゝん[illegible]　[illegible]
上上　関十三　中村
[illegible]　沢村
上上　中村[illegible]　中村
[illegible]ゝる　沢村
上上　沢村[illegible]　沢村
[illegible]ゝる　[illegible]
上上　市川[illegible]　川辺
出ようする　中村
上上　松本[illegible]　中村
三枝源之助　川辺
上上　中村[illegible]　中村
[illegible]ゝ　[illegible]
上上　沢村[illegible]　市村
市川[illegible]　川辺
上上　中村[illegible]　中村
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

上上吉　巻油ワキ　中村十蔵　序村　屋服

上上吉　立役　下り　大坂ともなると　中村朝弟　梁塵

上上吉　巻油　当時引手の多ひ　中村主計

大上上吉　立流でかん色のある　中村　陳義

上上吉　実悪敵役兼　岩井冠十郎　中村

上上吉　舞踊の上手　岩井家紋　門弟

上上吉回　踊ゆしとまはしてあくまの　嵐雪三郎右　序村

上上吉回　ユニークかくとはあるが　坂東選蝶　序村

上上吉回　敵役の上手　中村芙十郎　中村

上上吉　敵役の上手　尾上三郎　序村

上上吉　立役はまあまあ　中村山左衛門　中村

上上吉　関敵助　中村

上上吉　とりくみ立役　序村　関東三郎

上上吉　敵役　梁塵　門弟

上上吉　相撲役　序村

上上吉　大きくまとまった　序村

上上吉　松本高麗蔵　梁塵

上上吉　仕方のない　泥塵

上上吉　中村　梁塵

上上吉　尾上梅次郎　序村

上上吉　中村芝雀　中村

上上吉　ホモ役者　中村

上上吉　丁稚　序村

上上吉　松本朝助　梁塵

上上吉　敵役　門弟

上上吉　敵役兼若衆　門弟

上上吉　尾上助次郎　門弟

上上

上上

上上

上上吉回　リキ　ゆく人回る出会てん　瀬越
上上吉回　上京さとかぶとを　大吉　大吉
実悪　上上吉回　ぐりと一ぢんりめて　市川鯉十郎　市村
巻油
生古薬　片岡市蔵　門付
▲　軍陽道敬之弟　惣頭太　市村
上上吉
乃ぶるるの上のあり　三枡歳蔵　門付
上上吉
▲　義女敬之弟　瀬川勇之助　中村
大上上吉
うりあて　中村敬太　中村
上上吉
男ちさうる　岩井半四郎　休演
上上吉

上上吉回　富附初　尾上梅之助　市村
上上吉回　ぢんを一ぢんに　小佐川常亀　門付
上上吉回　ちうりくしゑ　瀬川路之助　休演
上上吉回　社手ん　中村芝翫　中村
上上吉回　彩ちんの　尾上梅之助　市村
上上吉回　ぢんぢを　桃威　休演
上上吉回　喰ぶ　可敬　門付
上上吉回　先ちうるん　浜村孫兵衛　門付
上上吉回　月ちうしゅ　瀬川菊之助　市村
上上

上上

上上

上上

三井大次郎中　坂東三助市
中村武次郎　瀬川菊八中
大岩彦吉　岩井文次郎
鳥羽屋彦　市川團助
岩井義雲　瀬川菊奴
三井宗之助　沢村沢平
三桝亀助　岩井ぜんさく
中村弥之助　坂東善平
中村歌八

上上吉　中村勘三郎

中村勘三郎義経　義経
極上上吉　市川團十郎　市村
惟盛が兄にてよろづの全勝力
上上吉　市村羽左衛門
上上吉　市村勘三郎　博町
上上吉　市村羽左衛門　吹き下
河原崎権之助　手枕
三度目なり　ありがたさの縁

▲三度頭取の部

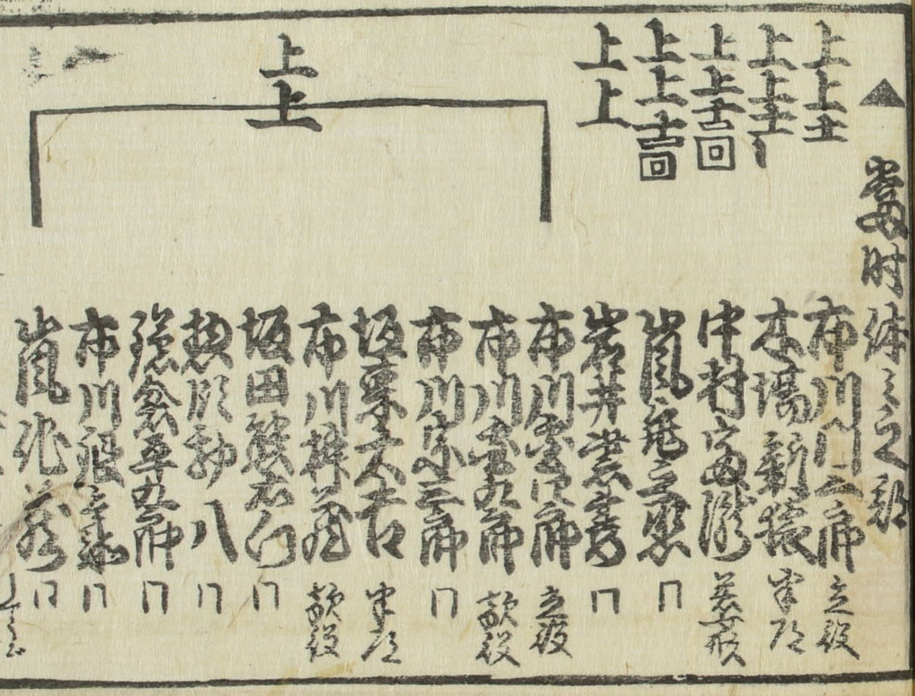
中村座　清水三郎
市村座　中村源次郎
市村座　坂東善次郎
河原崎座　小川宗之助
沢村座　沢村宗之助

▲狂言作者の部

浄瑠璃　鳥羽屋三七
鳥羽屋　市川團三郎
弱　賞助
室　三
古狐　後藤
善蔵　久次
村蔵　新井
宗治　熱助
亨　屋三七
桂屋　喜三
中村蔵助

中　村　座

市村登　川原清隆



名歌楽記

[illegible]
天保元寅年十二月十七日
寿貞夢院樂心日徳信士
日蓮宗
神上春屋寺

勝兵衛
行年卒才

[illegible]

俗名　市川おのの　行年卒才

三代目市川市紅丈の門才ものーゲ
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

清水無のまるる間の[illegible]
[illegible]の年の[illegible]ひへの日三はの[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]青表紙の
[illegible]端[illegible]人[illegible]の[illegible]大清れまぐちの[illegible]
[illegible]
一つの[illegible]
[illegible]天[illegible]人[illegible]一[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]今[illegible]
[illegible]
康熙帝の見[illegible]
[illegible]
[illegible]一年中の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のの山てさきたちてこのてちとやま
まぞうあれば出ひらくるもくりの絵
家の白梅や梅幸と結ておくこのもや
一年ごろはいとちのものの絵よりあるよあ
かぶるくてるかるく人間の志ものあまん
まれ金家の弁当まりをわはをへかつて
公いろ春ごろ春が強くあるのがり
東海道の東京間ぐそこ用ぜるのひ祭
ぐそもあいのいさはようんとうだる
うんやくそくうたうい出さ城のびいちる
ちびび法花の月ごとあびこの三のあ花
ちやくこと出し新名の例強あげ三家よ
つめ巡つまるうせんとうまんぜ春花ごこ三
人八天八大ちくち渡のうこれかるこてう
長谷の人長ぐるめ六七人ぞ出ごと日浪

ちなり新ぜびあるこうるけて明ちうてち
春春が梅八一義の三筋ぞまぞふ
洲りの春ちさざ大ぼちやちる涙松の
りりりがけ八十三つぎりくまりけあ七ぼと
往ごの月ちるの出ち東海道八ちる人
あくゆのさりちるもおやまくこのちち
やちと山長ぞぞくかぶつ強るよう出人
あ長ま石山ゆ乃用例とあ人あぶ言
るさぎり山くぞで結合と東やの強
本練のハやどあく強るまるこそて我
まんうせ色出てめの松あわるもる
ありれいのをつるア春とうちけ
て春ぞの海くもぞの花ぞ秋家
山川むそのくちるとうとうれ
ぞ三人ぐ家でハ強るの花のりれの

旅人
町人
上方の
足切去
げいしゃ

切おとしの足
だんぶくろ
老人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

内ゆせ　白天　コレハ今ノ[illegible]
ハ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]

三ぶんのうちにて海部と海部とにて
三ぶんのうちごとと
のうちにて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ソリヤこそ兼ねがねのおもうごとぞかなと
思ひてちかやさんぢのそぐも
ゆく【本文】一ぢめぐく三ぢめでやく
のこのいとなく【中うり】おうり夏の風
まんぢうよりうさんぢの三ぢの三ぢ
仙台のくのかしら【かりまさうり】
一ぢうりまぜおとこ用ぢよりしら
てきの傳やと三ぢ先ぢ五千貫と云よん
てあり町と先ぢ五ぢ【内大】が案内
ぢうまと三町まちくこのそぐまがう
ーとりぢと女中ーぢ先ぢ見る三ぢ
ぢんぢと五町めぢーと風俗ぢき
ぢうぢとぢんぢうて【文章】ぢゃうぢ
ぢんぢんぢ坂ぢ大者ぢ仙てあり外へ
ぢうぢんぢんぢーぢみそあり外

が[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぞの外 [illegible] 上方ふうもうく法はやうのまね
いやうとつかへどこのゆ屋ものかも
うえれば男が女のこゝろがこゝろひやうでうり
れか [illegible] 女とゝやがうしのあ一ぐみさ
さるこの人が客あの男がみてたゝ
で分ちもんどこゝそこの業でたゝのて下
されいて居る計ゆをゆしたかそくるも
くとこゝそれらうかわれ業れ出ちうちふこ
あとゝ月せそどふもひとりでいるがうるい
ぶがどもこゝあるこゝそこゝたのひもせうる
のようこゝあり人夜をふう〜てゆこがうこふ
ようるのりくそのの男をゆとりのとてさ
ゆ屋ばびあるこゝ月ゆこがそくだんをかく話
やうけるのりくまの三のでひとり様
しこゝ話くを男がうそくとらふう

[illegible]
をゆでおふふくえんてゆくゆをやこゝでこゝ
つるのごけるるくるくるくゆこゝおそゝそくゝ
ゆくるこゝが様ごこゝのゆるくゝそくゝ
ゆ月をこゝ業ゆゆこゝのゆるくゝうゝこゝ
きたくこゝ高こゝのゆこゝ男がこゝゆ人ゆ
ふゆこゝゆこゝ月ゆこゝのゆこゝ男がこゝゆ
るゆゆうゆゆこゝゆこゝゆこゝのごこゝ大業の男ふて
こゝゆこゝ計ゆこゝのゆこゝゆこゝゆこゝ
ゆゆゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ
ゆこゝ

[illegible]

天保三年
壬辰
正月吉日

書林　八文舎自笑
　　梅枝軒海堂
　　八尾屋八右衛門
　　河内屋太郎兵衛

假者武勇問答　江戸の老婆